

2020年度 学校関係者評価

委員所見

※コロナ禍のため、第1回は書簡でのやり取りを行い、第2回は3月16日にZoomにて開催した。議案は基準1～10まで。

学校関係者評価委員会

委員長 福永成明

重点項目について

●重点項目1

フォローアップの現地調査申請書を作成する上で、「職業実践課程」に関しては次の点に留意すべきです。コロナ禍で浮上したのが「ニューノーマル」（注1）という考え方で、訳せば「新しい常態（常識）」。

SDGsをはじめESG（環境・社会・ガバナンス）やDX（デジタルトランスフォーメーション）、ダイバーシティー（多様性）などの進行、さらにはファッション分野でもIoTやD2C、ライブコマースなどデジタル化が急速に広まり、ファッションビジネスにおいても、さまざまな場面での変革が予想されます。そうした状況の下で「職業実践課程」という実務教育においても、まずはファッション及びファッションビジネスの「ニューノーマル」を基本に据え、新しい潮流を反映したカリキュラムの策定が急務です。

(注1)「ニューノーマル」のキーワード

社会・経済

- ・ニューノーマルな転換は社会的なほぼすべての事象でおきる
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）が大幅に進展
- ・社会の多重化

ファッション

- ・「おしゃれを楽しみたい」という意識・行動は回復ゾーン（ヴォーグ）
- ・クリエイティビティという言葉は、パンデミック後の世界を思い描く際の重要なキーワード
- ・Z世代を中心とする新しい趣味として服のカスタマイズやリメイク（N, Y.）

ビジネス

- ・ニューノーマルな店舗が生き残る
- ・透明性・真正性・本物志向
- ・ライブコマースは日本でも広がる
- ・アップサイクル、古着販売、DIY、3D活用のモノづくりなど

●重点目標2

広報活動の強化については、HPのリニューアルをはじめ、SNSを立ち上げるなどが整備されています。これらの広報ツールに、訪問する機会や訪問頻度、さらにはこれら広報ツールを観た訪問者に興味や共感をもってもらうためには、そこに掲載された内容（編集内容）が重要です。教育内容や施設案内、学生生活の紹介も欠かせない内容ですが、ドレスメーカー学院のオリジナリティーをアピールすることは、とくに学生募集にとっては必要不可欠な

要件です。入学年齢の世代は「Zゼネレーション」（注2）と呼ばれる、新しい価値観を有しており、とりわけ環境保護に象徴される社会性を重視する特徴があるといわれます。そうしたなか、SDGsやLGBTQなどESGに関してのメッセージも、彼らの共感を得る重要な要素となります。ドレスメーカー学院の取り組みはもちろんですが、「院長のメッセージ」という連載（短文でいい）をtwitterに掲載するのもアイデアの一つになると思います。

（注2）

ジェネレーションZは独特の価値観を有している

価値観	意味合い
デジタルネイティブ	多くの場合、小規模で閉じたコミュニティを通じてコンテンツを共有する
寛容	人種や性の違いを超越しており、「ユニークさが新しいクールである」と考える
責任感	世界的な景気後退が勤労意識につながっている
(独学による)教養	情報にみずからアクセスして教養と先見性を獲得する
起業家精神	革新的ビジネスの創業者に憧れる
社会的意識	勇気と社会を変えるような起業家精神を重んじている

資料：AT. カーニー

【基準1】教育理念・目的・人材育成像

●中項目

・理念・目的・育成人材像

- ・教育理念である「挑戦・創造・自立」を3つの「C」にアイコン化したことは、ドレスメーカー学院の特色を分かりやすくする効果があると思いますが、「自律」（Career design）のCには無理があるように映ります。この点を考慮したうえで、当学院のアイデンティティになるよう持続的発展に期待します。
- ・コロナ禍が続く中で、繊維ファッション業界は大きな転換点に差しかかっています。令和2年度においては、コロナ禍の影響で企業も学校も特異な状況に直面していますが、コロナ禍が沈静化した後も、この影響は続く多くの識者が予測しています。それが「ニューノーマル」への対応です。
- ・ECビジネスの進展によって、ファッション小売業界の地殻変動が生じ、ファッション系専門学校にとって受け皿となっていた「販売員」が質的にも量的にも様変わりするとみられます。そうした状況を見据えた「職業実践」の教育内容の検討が急がれます。

【基準2】学校運営

中項目

- ・運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム・情報システム

- ・「課題・解決の方向」で「単年度の事業計画は速やかに執行されているため、計画に及ばなかったことは近年なかったため、「見直しの時期・内容を明確にしていない」は、意味が伝わりにくい記述です。
- ・「システム」では、Wi-Fiに関する説明がありませんが、これらの状況を示してください。文中に「wifi」環境に触れていますが、情報システムでも触れるべきです。なお、表記は「Wi-Fi」です。
- ・運営方針に関して二つの項目を定めて取り組む計画であったのは理解できますが、2020年度を振り返り、取り組んだ結果も記載すべきです。
- ・「運営方針の組織内の浸透度」に関して「浸透度を調べていない」とありますが、コロナ渦ということは理解できるものの、教職員にメールでもいいので、調べるべきと思われます。
- ・「組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取り組み」に関して「コロナ渦のため行われなかった」とありますが、工夫を凝らし何らかの形で行うことはできなかったのでしょうか。

【基準3】教育活動

●中項目

- ・目標の設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許取得の指導体制
- ・教員・教員組織

- ・ファッションの世界で「オリジナリティー」が不可欠になっていることは周知のとおりです。しかし、オリジナリティー創出の教育メソッドは手探り状態にあるのが現状です。そうしたなか、前述の「ニューノーマル」に関しては、さまざまな研究が行われていますが、その一つに「問題発見能力」の養成があります。
- ・これはビジネスだけでなく、クリエイションやテクノロジーにおいても求められる要素で、ファッション界に潜在する「問題」を見つけ出す能力。これこそがオリジナリティーの第一歩となります。
- ・成功しているブランドや企業が、どのような問題発見能力を有し、それをもとにどのようにブランを構成していったのか。そうした事例研究するのも方法の一つでしょうし、「私の問題発見」というテーマのプレゼンテーションを繰り返すのも、問題発見能力のトレーニングになるはずです。
- ・Zゼネレーションは、DIY（ドゥー・イット・ユアセルフ）へのニーズが高いといわれ、古着などを自分でリモデルして、それをSNSに投稿販売する例が欧米で増えています。また、NHKのEテレで放映されている「ソーイング・ビー」（注・英BBC制作）は、ホームソーイングの再来を思わせる番組です。ファッションでも“OWN・メイク”が評価される時代が来ており、そうしたターゲットを考慮した教育体制も専門学校にとっては重要である、と思われます。

(注) 「The Great British Sewing Bee」

事前オーディションで選考されたアマチュア裁縫家たちが、毎週与えられるテーマに沿った縫製技術や出来栄を競い合って勝ち抜いていく「裁縫バトル」番組。会場となるソーイング・ルームには、各種の布やリボン、ファスナーなどがストックされ、参加者には一人一台ずつの裁縫台とマネキン（トルソー）、ミシン、アイロンなどが割り当てられる。参加者は、使用資材の選択に始まり、型紙の準備、裁断、縫製、アイロンかけ、飾り付けなどの作業をすべて制限時間内に終わらせて課題作品を完成させる。課題によっては布や型紙が持ち込みとなることもある。

- ・「教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど定めているか」に関しては、「2020年度より挑戦、創造、自立に沿った理念のマトリックスにカリキュラムを落とし込んで実施している」とのこと、コロナ渦にもかかわらず、さまざまな工夫を凝らし推進していることは素晴らしいと思います。
- ・「課題、解決の方向」、及び「特長として強調したい点」に記載されている内容も、大変素晴らしい内容だと思います。
- ・特に「ファッションビジネス科」で2020年度より取り組んでいるカリキュラム改善は非常にいい取り組みであり、また「サステイナブルの考えを理解するために、産学連動授業を通してリサイクル・リユースも学ぶ」とありますが、この観点も今の世の中の流れをよく理解し、実行している点は評価できます。

【基準4】学修成果

●中項目

・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価・就職率

- ・卒業生の社会的評価は、指摘されるように評価方法が定まらず、難しい点は理解できません。ただ、卒業生の活躍は在校生にとっての励みともなるため、芳和会の活性化は検討すべき課題です。多くの学校では卒業年度を定めて「ホームカミングデー」を実施する例があります。講演やファッションショーなどを行い、卒業生（同窓）の交流の場としても、このホームカミングデーは意義のあるイベントと言えます。また、卒業生自らが運営する“自治組織”としての校友会をもつ例も少なくありません。
- ・「課題、解決の方向」に、「コロナ渦は一過性のものと考え…」とありますが、この考えに修正が必要で、当分、ファッション業界はコロナの影響を大きく受けるでしょうし、仮にワクチン接種が国民全体にいきわたってコロナ禍が終息したとしても、ビフォア・コロナの状態には戻りません。「一過性のもの」と考えてはだめで、今後もこのような状態が続くことを前提に真剣に就職のことに取り組まないと大変なことになると思います。
- ・「課題、解決の方向」に「全国水準と比べても同等以上の合格率」とありますが、普段からのきめ細かい指導の賜物であり、今後も継続する必要があります。

【基準5】学生支援

●中項目

- ・就職等の進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連携

・ 卒業生・ 社会人

- ・ 1年次に中途退学者が多い理由に「目的意識の低さ」が一因とされていますが、これへの対応は大きな課題です。退学理由は、いくつかの問題が重なる場合があり、それらを丁寧に分析し、対応策を講じる必要があります。
- ・ 現在は、社会人学生がいないということですが、最近、日本でも「リカレント教育」が注目されています。社会人のスキルアップを支援するリカレント教育は、既存の教育課程とは切り離し、独立したコース新設の検討も必要ではないかと思えます。
- ・ 「課題、解決の方向」に記されている内容の通り、今後しばらく（あるいは恒久的に）ファッション業界の雇用は激減するのは確実なので、アパレルに限定せず身につけたスキルを活かすことのできる他産業まで視野にいれなければならないと思う。
- ・ 「課題、解決の方向」に記されている内容は、今の時期本当に必要なことなので、今しばらく継続して実施して頂きたい。
- ・ コロナ禍で経済的に困窮している学生たちも多いと思われる中で、このような取り組みは大変に有意義な取組であり、特に昨年4月からスタートした文科省の修学支援新制度を9名の新生入生、19名の在籍生が利用したとのことは、大変よかったと思えます。
- ・ 「特長として強調したい点」に記されている「寮の居室に冷暖房施設を設置した件」と「Wi-Fi環境を整備した件」は、今後の学生募集時の利点としてもアピールできるし、大変良かったです。
- ・ 「課題、解決の方向」「特長として強調したい点」に記されている内容とリンクしますが、卒業生への支援体制の整備は新生入生募集にもかかわってくるので（同じ高校のOB・OGへのヒヤリング等で情報収集するので）今後もしっかり取り組む必要性は高いと考えます。

【基準6】教育環境

● 中項目

・ 実習・ インターンシップ等・ 防災・ 安全管理・ 施設・ 設備等

- ・ インターンシップは、総論として「必要」としながらも、いざ実施するとなると多くの問題が未解決のままです。当学院では、かつてワールドとの連携で「ストアマネジメントコース」を実施してきましたが、2年間にわたってワールドのカリキュラムに沿って、店舗実習を含めた実学を行ってきました。インターンシップの方法の一つとして、これと類似した仕組みも含めて、インターンシップの精度を高める検討が必要です。
- ・ また、インターンシップに関する実施要綱やマニュアルは早急に整備すべきです。
- ・ 2020年度はコロナ禍対応での教育環境整備が必要不可欠であったと思われませんが、2021年度も引き続き同様の対応が求められます。

【基準7】学生の募集と受入れ

●中項目

・学生募集活動・入学選考・学納金

- ・高校へのアプローチに関して「6月中旬まで訪問はできなかったため、郵送にて提供した」と記されていますが、その後何らかの対応をもっと積極的に取るべきではなかったかどうか。
- ・アパレル産業がこれだけ衰退し、販売員含め新規採用が激減している中、ファッション専門学校の卒業後の就職を考えた場合、入学を逡巡する高校生が増えてくるのは間違いなく、今後ますます募集活動が今まで以上に厳しくなるのは明白です。そういった中で、高校側の理解を深めていくのは重要と思われる。
- ・コロナ渦でも、さまざまな工夫を凝らしオープンキャンパスに代わるZOOM等を利用した取り組みや、SNSを活用しての情報発信は素晴らしい取り組みだと思います。
- ・入学金・授業料等の値上げ自体は致し方ないことと思われそうですが、この項目は「学納金の水準は把握しているか」という課題なので、水準と比べてどうなのか？という記述が必要だと思います。

【基準8】財務

●中項目

・財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開

- ・学生の増員は、新卒者だけでなく、リカレントやホームソーイングを含め、多角的な方策を探る必要があります。

【基準9】法令の遵守

●中項目

・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開・関連法令・設置基準等の遵守

- ・個人情報保護に関して、対策はしっかりと取っていることは十分に理化できました。しかし、最近積極的にSNSを利用しているケースが多いと思われるので、その際のセキュリティ対策はしっかりと取っているかどうか確認が必要と思われます。

【基準10】社会貢献・地域貢献

●中項目

・社会貢献・地域貢献・ボランティア活動

- ・しっかりと取り組んでいることが理解できました。
- ・「ニューノーマル」の時代でESGはますます重要な要素となります。エコやリサイクル

はもちろんです、社会性をどのように具現化していくのか。これまでの延長線だけではなく、新たなメニューを構築する必要があります。これらに関しては在校生や入学生の世代である「Zゼネレーション」が重視する考え方であり行動です。それを考慮した新たな活動が望まれます。